

粕谷和夫の観察日記より。梅雨入りの頃、野山を歩いていたら緑色の葉の一部が白くなったマタタビが目立ちました。この現象が起こる理由は、花粉を運ぶ虫たちに見付けられてもらうためと言われています。6月12日、八王子の奥（醍醐林道）でも葉が白くなったマタタビが目立ちました。この花の下には白い5弁の花が下向きに咲いていました。

紅葉台



新聞

第139号

2024年

7月20日

発行人：関谷 孝

シニア散歩 高幡不動尊あじさいまつり

6月5日（火）雨あがり後の晴天。風が爽やかでお出かけ日和でした。この日は、11名参加。高尾駅からは京王線で15分程。高幡不動駅を降りると、参道が始まり、歩いて5分程なので、足回りがいいところです。（6月30日まで）

6月は、第40回「あじさい祭り」にたくさん



の人が見学に来ていました。今年は、咲くのが遅いようですが、ここは山アジサイが丘陵地にたくさん咲いています。約3000株の自生の山アジサイをはじめ全国から寄せられた約1000株の山アジサイ、ガクアジサイ等合わせて7800株が順々に見頃を迎えます。開花状況はHPなどで確認することが出来ます。期間中には、山内八十八か所巡りクイズ、奥伝特別寺宝展および五重塔無料休憩所開設、薄茶接待（一服500円対象日）などがありました。山アジサイは、日本各地に生息する様々な種類があり、見慣れている華やかなあじさいとは違い、小ぶりで可憐ではかなげな様子です。山肌に添って登るのは皆さんきつかったようです。一番の見どころは、五重塔の裏側から見上げる風景でした。絵葉書のような写真が取れました。奥のお茶室に行く道にも日本の各地からやってきたアジサイがそこかしこに植えられていました。お茶室近くの粕あじさいはブドウのように花が大きく見ごたえがあります。最近では粕あじさいを植えている方も多いようですね。また、あじさい祭りの期間中はあじさい市・植木市（土日）や写真コンクール、俳句短歌大会、クイズめぐりなどさまざまなイベントも実施。



金剛寺には貴重な文化財も多く、室町時代に作られた「仁王門」や「不動堂」、総重量1100Kgを超える巨像で日本一といわれる「丈六不動三尊」などは一見の価値があります。

シニア散歩は、皆さんでおしゃべりしながら歩くのが楽しいですね。帰りはそれぞれの仲間でお昼を食べました。出かけて話して楽しい時間を過ごせるのは高齢になってこそ必要です。楽しい時間を過ごし、皆さんと交流するシニア散歩はますます必要だと思えました。

『ホトトギス 鳴きつるほうをながむれば有明の月ぞのこれり』百人一首より（散歩シニア散歩担当の鈴木さんより後程感想をいただきました）。「鳥の鳴き声もよし、百花繚乱



の頃ブラボーですね」との感想も。ちなみに、入り口近くにある「土方歳三の像」はここが新選組副長土方歳三の菩提寺としても有名です。

また、高幡不動尊のおすすめグルメといえば、参道沿いにあるそば処「開運そば」。どの蕎麦にも「開運」の焼印が入ったかまぼこが添えられていて、見た目も可愛らしく、なんだか運気が上がりそうですね。



粕谷和夫の観察日記

6月5日、入笠湿原で希少種のイチヨウランに出会い、満足しましたが、もっと希少なカモメランも開花していました。【写真上】。84歳にして生まれて初めての出会いの花です。この時期入笠湿原ではクリンソウ【写真下】、スズラン、マイヅルソウ、ウマノアシガタ、イヌザクラ、ズミなど春の花が咲き誇りウグイス、ホトトギスの競演が楽しめました。



この写真は、日野市内某所で民家の敷地内にごみの捨て場として掘った穴の壁にカワセミが横穴を掘って造った営巢中の巣です。カワセミは露出している土の壁に横穴を掘って営巣しますが、最近では人による開発でカワセミが巣を掘れるようなところが減ってしまっていて、カワセミは住宅難になっています。この写真のような場所に巣をつくる現代のカワセミはしたたかですね。



高尾駅から小仏川遊歩道、中央高速道沿いの道を通り御霊谷川経由で八王子城跡まで歩きました。中央高速道沿いでサルの小集団に出会いました。そのうちの1頭が桑の実を食べていました。

箸使いの作法

私達は、日ごろから箸を使って食べる習慣がありますが、意外と知らないのが箸使いの作法ではないでしょうか。家族で話題にしてみるのもいいのではないのでしょうか。知っているようで知らないことはたくさんありますね。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。